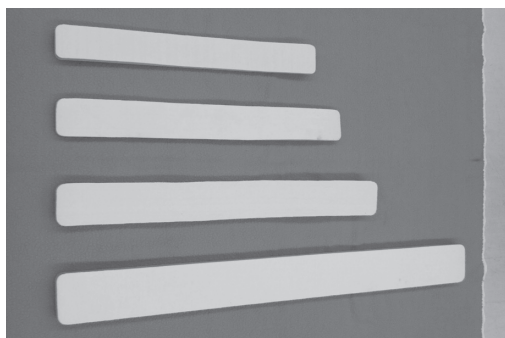
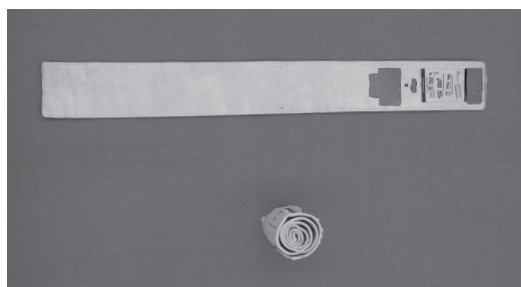


(富良野広域連合上富良野消防署)

・ クレンメルシーネ (図3)



・ 万能副木 (図4)



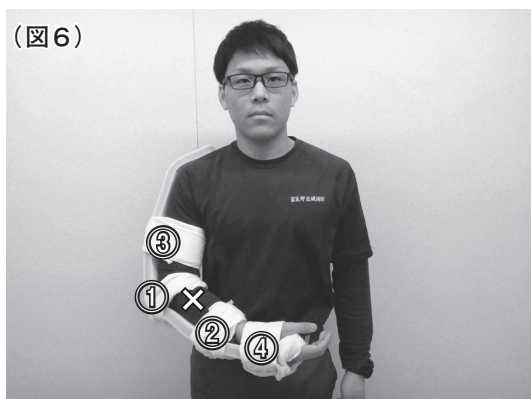
5 副子による固定処置 (前腕部骨折の場合)

(図5)



骨折部位に応じて上下関節部が固定できる副子のサイズを選定します(図5)。 ✕ : 骨折箇所

(図6)



副子を骨折部の外側に当て傷病者の疼痛の状態を確認しながら前腕部を支持し、三角巾(8つ折り)を固定する箇所に差込みます。差込み後、図6に記載されている番号順のとおりについで固定を行い、端末を処理します。

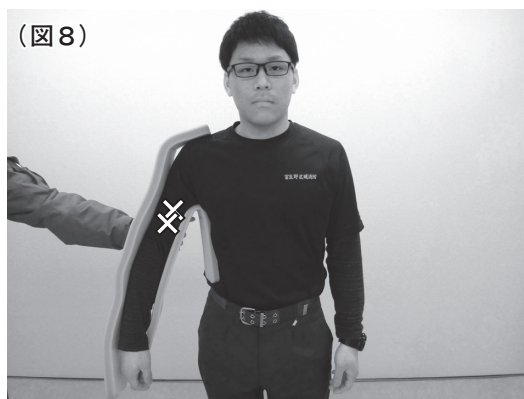
(図7)



最後に堤肘三角巾で保持した後に体幹に固定し完成です(図7)。

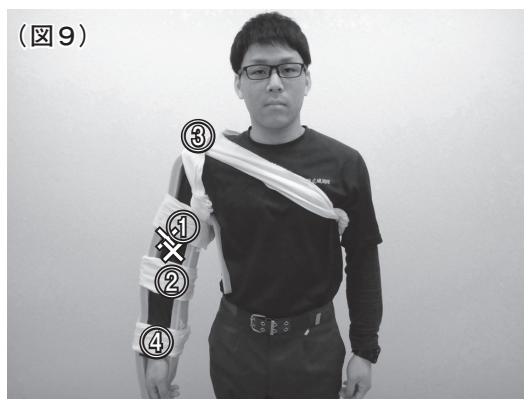
6 副子による固定 (上腕部骨折の場合)

(図8)



前腕骨折と同様に骨折部位に応じて上下関節部が固定できる副子のサイズを選定します(図8)。 ✕ : 骨折箇所

(図9)



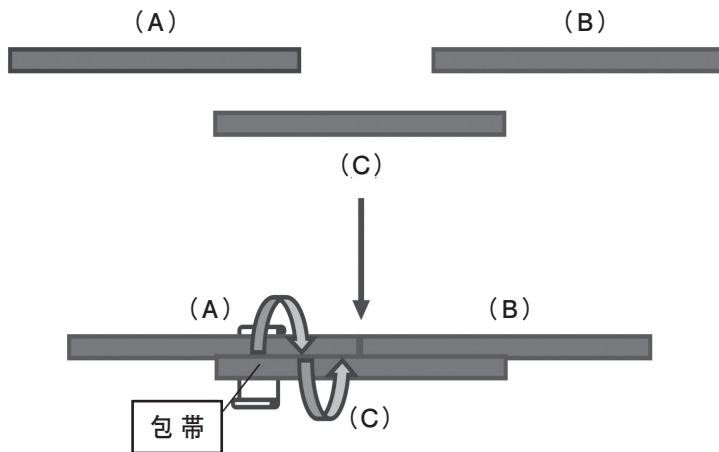
副子を受傷部位の外側に当てもう1本の副子の末端を折り曲げ、その折り曲げた部分を腋下部に当てた後、それぞれ挟むように支持して三角巾(8つ折り)を固定する箇所に差込みます(図9)。

差込み後、図9に記載されている番号順のとおりについで固定を行い端末処理して完成です。

7 補足用副子の作り方

大腿部骨折時の固定時に必要となる補足用副子の作り方について説明します。

副子(サイズL)3本を準備し、副子(A)と(B)の端を重ね合わさずに接続させます。そして接続部分を補強させるために、受傷部の外側となる部分に副子を当てます。



最後に副子(A)、(B)、(C)の接続部に包帯などを利用してらせん巻き等で補強を行い補足用副子の完成です。

8 副子による固定(大腿部骨折の場合)



大腿部骨折の場合、補足用副子と副子(サイズL)を使用して骨折部を挟むように支持します(図10)。

✕ : 骨折箇所



大腿骨骨折の場合、中枢側では股関節、末梢側では膝関節と足関節の2関節を含むように固定するのが望ましく今回は上半身から足関節までを図11に記載されている番号順のとおり結んで固定し末端を処理して完成となります。なお、胸部を固定する場合は呼吸運動を抑制しないように注意する。

※骨盤部を固定するためには体幹を固定しなければならないので、固定しやすい上半身から先に固定しましょう。

9 副子固定のポイント

副子を固定するため、三角巾等を巻く場合は適度な強さが必要となります。ゆるい場合は骨折部位の動揺を招き、きつすぎると末梢の循環不全を引き起こす場合がありますので、巻くときには傷病者に対しての声掛けを行うとともに痛みの状態を確認し、骨折箇所と副子に隙間がないことを確認し、固定を行う必要があります。固定は緊縛力の均一化を図るために原則一人で実施し、他の隊員が移動、動揺がないように副子を支持しましょう。

長期搬送となる場合は搬送途中での循環障害、知覚障害の早期発見のため可能な限り指(趾)先を露出させ、色調の変化に注意し、意識がある傷病者に対しては感覚鈍麻や疼痛増強などの有無を確認する。

※今回掲載するにあたり、前腕骨折の場合は副子1本による方法、上腕骨折の場合は副子2本による方法を掲載しています。副子1本による方法は固定が素早く実施することができ早期搬送に適しています。副子2本による方法はより強固に固定することができ痛みの軽減、動揺を防ぐことができ、山岳救助事案での万能担架やスノーボ

ートによる長時間搬送、救急車内まで搬入するまでに長時間を要する場合などに適しています。副子1本による方法か2本による方法については傷病者の骨折の状態、車内収容までの距離などを判断し、最良な固定方法を選定しましょう。

今回は「●●●●●●●●●●」の予定です。

10 おわりに

近年は、骨折等の処置において利便性の高い陰圧式固定器具を導入し使用する救急隊が多いと思います。今回は汎用性の高い副子を使用した固定各種方法の再認識、手技向上のため掲載いたしました。各所属で使用している各種資機材は異なると思います。取扱説明書、添付文書、仕様書、処置テキストを十分に把握し、隊員間で訓練を行い安全、確実、迅速に手技を行えるよう努力していきましょう。

著者

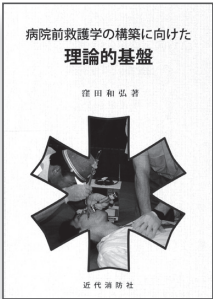
名前：村上 領
所属：富良野広域連合
上富良野消防署
出身：北海道中富良野町
消防士拝命：平成21年5月
救命士合格：平成21年4月
現職：救急救助係
趣味：バスケットボール



病院前救護学の構築に向けた
理論的基盤

窪田 和弘 著
A 4判 / 80頁 (巻末綴込みA3・2枚)
定価 (本体1,200円＋税)

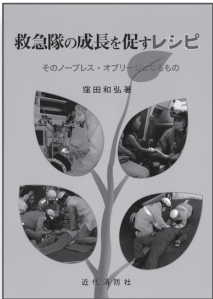
第1章 理論の基礎	第3章 理論と実践の統合
1 理論を学ぶ / 2 病院前救護と理論 / 3 病院前救護の理論作りに向けて	1 理論適用による病院前救護展開の実践
第2章 病院前救護の理論作りの実際	第4章 病院前救護の学問構築に向けて
1 科学的に分析する / 2 検証する / 3 実践との整合性を図る / 4 振り返る / 5 病院前救護全体の本質	1 学問の背景としての理論 / 2 理論から学問へのステップアップ / 3 病院前救護学の関連科目 / 4 病院前救護学の構築



救急隊の成長を促すレシピ
そのノーブレス・オブリージュなるもの

窪田 和弘 著
B 5判 / 188頁
定価 (本体1,800円＋税)

I 序論 (救急隊の活動 / 救急隊の活動現場)	V 相互作用 (コミュニケーション / 高齢者と話す / 子どもと話す / 傷病者等が発する「言葉」 他)
II 心構え (救急のプロフェッショナルになる / ストレスに負けない / 倫理観を持つ / 慢心を捨てる 他)	VI 身だしなみ (救急服を着る / 趣味、嗜好を自制する 他)
III 技能 (現場力 (現場の知) を得る / 病院実習から学ぶ 他)	VII 伸長 (経験を活かす / 部下を育てる / 満足感を持つ 他)
IV 行動 (現場行動を再考する / 危機に介入する / 社会死状態へ対応する / 先を読む / 社会死状態へ対応する 他)	VIII 探究 (これからの学び - 新人救急救命士に送る 他)
	IX 補遺 (私の救急人生を作り上げたもの)



—近代消防社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号(日本消防会館内) TEL: 03(3593)1401 FAX: 03(3593)1420—